

平成 30 年度第 1 回市川市幼児教育振興審議会会議録（詳細）

1. 日 時 平成 30 年 11 月 28 日（水）17 時～18 時 30 分

2. 場 所 市川市教育委員会 会議室

3. 出席者

委 員：会長 高尾公矢、副会長 駒久美子、中村よしお、吉田英生、緑谷一樹、
松尾裕美、榊田美恵子、内山利恵子、土木田邦男、齋藤麻莉子、高野佳子、
竹内陽子、野口敏樹

市川市：松丸教育次長 松尾生学習部長、根本生涯学習部次長、井上学校教育部次長、
川又指導課長、高久こども政策部次長、岡崎子育て支援課長
宮内こども入園課長、生澤こども施設運営課長、
長谷川こども施設運営課副参事、秋本こども施設計画課長 ほか

4. 議 題

- (1) 「市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」の実施状況について（報告）
- (2) その他

5. 配布資料

- ・次第／委員名簿
- ・資料 アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム冊子

○ 高尾会長

只今より、平成 30 年度第 1 回市川市幼児教育振興審議会を開会いたします。

本日は、委員お一人が遅れていらっしゃるということで、全員の出席が予定されています。現在のところ、審議会委員 13 名中 12 名が出席されており、市川市幼児教育振興審議会条例第 6 条第 2 項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますので、本会議は成立いたしました。

また、市川市審議会等の会議の公開に関する指針第 7 条に基づき、議題に係る会議を公開するかどうかを決定いたしますが、本日の議題は法令等で非公開とはされておらず、また、個人情報などの非公開情報も含まれておりません。同指針第 6 条に規定する非公開事由はございませんので、会議を公開することとしてよろしいかお諮りいたします。いかがでしょうか。

《委員一同 異議なし》

高尾会長

ご異議がないようですので、本議題に係る会議を公開することと決しましたので、傍聴人がいましたら入場をお願いします。

《傍聴人なし》

【議題 1 「市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」の実施状況について（報告）】

○ 高尾会長

それでは、「議題 1 市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実施状況について」です。報告ということですので、事務局から説明をお願いします。

○ 指導課長

市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実施状況につきまして、報告させていただきます。

まずは、これまでの経緯とそれぞれのカリキュラムについてご説明いたします。これまで、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続については、平成 20 年の「小学校学習指導要領解説生活編」の中で、幼児期の学びから小学校教育への円滑な接続を目的としたカリキュラム編成の工夫として、スタートカリキュラムが示されてきました。そして、今回の改定においては、第 1 章総則に、「学校段階等間の接続」が新設され、その中で、「低学年における教育全体において、幼児期の教育との円滑な接続を図られるように工夫する必要がある」と示されました。さらに、「小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に、円滑に接続されるよう、スタートカリキュラムを編成し、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」と規定され、低学年の各教科等の学習指導要領にも同様の文言が明記されました。このように、新学習指導要領では、スタートカリキュラムの充実が一層求められています。このことに対し、市川市教育委員会では、昨年度よりカリキュラム検討委員会を設置し、幼児期から小学校への円滑な接続を実現させるための「接続期カリキュラムの作成」を進めてまいりました。そして、市川版「アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」

の冊子を作成し、市川市の公立私立幼稚園・保育園・認定こども園、公立小学校へ9月末から11月にかけて配付いたしました。9月4日には、公立私立幼稚園・保育園・こども園・市川市立各小学校からご参加をいただき、合同研修会を開催いたしました。研修会では、モデル園・モデル校の実践発表と、「保幼小の円滑な接続を目指して」と題し、聖徳大学非常勤講師 篠原孝子先生によるご講演をいただきました。

それでは、お配りした冊子をご覧ください。この冊子は、最初の見開きに「アプローチカリキュラム」について、次の見開きに「スタートカリキュラム」、そして最終ページは「スタートカリキュラム編成の基本的な考え方」を記載してあります。

まずは、アプローチカリキュラムについてお話いたします。アプローチカリキュラムのページをご覧ください。アプローチカリキュラムとは、就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の育ちや学びの芽生えが、小学校の生活や学習で生かされ、つながるように工夫された、5歳児の10月から小学校入学までのカリキュラムです。5歳児の10月ごろの子どもたちは、友達関係を深めながら自分の力を十分に発揮したり、お互いの良さを認め合ったりしながら、共通の目的に向かって自分たちで遊びを進めていく姿が見られるようになります。また、卒園・入学に向けての期待が高まる時期でもあります。幼稚園教育要領には「幼児期に育みたい資質・能力」として、「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」の3つが示されています。左のページには、この3つの資質・能力に対応して10月以降に目指すべき具体的な子どもたちの姿の例を記載しました。そして、これらの姿を実現するための保育の展開例を右のページに記載しております。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、教職員が指導をする際に考慮するものであり、到達すべき目標ではございません。

続いて、スタートカリキュラムについて説明いたします。スタートカリキュラムのページをご覧ください。スタートカリキュラムとは、小学校へ入学した4月から7月ごろまでの間に行われる、幼児期の学びを小学校教育へと円滑につなぐカリキュラムです。小学校で出会う新しい先生や友達、教室や校庭などの場所に親しみ、集団生活に慣れることを目指し、生活科を中心に少しずつ合科的・関連的な学習へと移行していくカリキュラム構成が求められています。左のページには、人に親しみ、場所に親しみ、集団生活に慣れる段階である4月上旬のねらいと学習活動例、配慮事項を示しました。なお、詳しい第一週のカリキュラム例は最終ページに記載しています。右のページには、生活科を中心とした合科的・関連的な学習へと進む4月中旬以降の各教科のねらいと学習活動例、配慮事項を示しました。

最終ページをご覧ください。カリキュラム編成の基本的な考え方を記載しております。大切なことは、小学校の教職員が、幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を把握するということです。幼稚園や保育園を見学し、活動の様子を知ることが有効です。見学できない場合でも、入学に際しての引継ぎの中で、どのような指導が行われてきたのか、どのような活動をしてきたのかなど、幼稚園や保育園での学びの内容について聞くことが重要だと考えております。

アプローチカリキュラムもスタートカリキュラムも、一から考えていく新しい取組ではなく、今まで先生方が行ってきたことを、カリキュラムとして明文化し意識化することであると考えております。現状として、お配りした冊子を基に、各園ではアプローチカリキュラムの実施に向けて取り組んでいただいているところでございます。小学校については、年度末の引継ぎを経て、4月のスタートカリキュラム実施について準備を進めているところと存じます。今年度、

全体へ周知したところですので、まずは意識を持っていただくことが大切であると考えております。今後の方向性についてですが、31年度の6月ごろ、各園・各校に実施についての調査を行い、状況の把握に努めて参りたいと思います。さらに、実態に応じた取組が進むように研修会を設け、理解を深めていきたいと考えております。

○ 高尾会長

事務局から、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムについての報告がありました。ただ今の報告につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いしたいと思います。

○ 緑谷委員

こちらのアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの策定にあたっては、早い段階から私立幼稚園の意見を聞く場を設けていただきましてありがとうございました。こちらの冊子の内容については私立幼稚園としても十分に内容を把握をし、小学校との連携を深めていきたいと思っています。最終ページの「スタートカリキュラム編成の基本的な考え方」に、「幼稚園、保育所等を訪問し、園児の活動の様子を見学したり、教職員と意見交換したりする。」とあります。小学校への入学前に就学時検診があります。3学期の頃に、今年度はこういう形でやりましょうと、小学校側への指導は具体的に始まっているのでしょうか。以前のこの会議でお伝えをしたと思いますが、学校によって引継ぎの体制がばらばらで、口頭でお伝えしたいことがあってもなかなか接する機会が得られなかったりということがあります。特に、1年生の担任をされる先生方を思うと、そういう場をぜひ積極的に設けていただきたいという思いがあります。よろしく願いいたします。

○ 高尾会長

事務局の方でお願いします。

○ 指導課長

冊子の策定にあたって、たくさんのご協力をいただきましてありがとうございます。次年度の引継ぎにつきましては、先日の研修会でもお話をしました。1月の校長会には全ての校長が集まりますので、その席で、4月当初の引継ぎについての具体的な話をさせていただきます。引継ぎの体制が上手くいかなかったりばらばらだというお話はお伺いしておりますので、そういったことがないように、また、これまでに小学校に入学しているお子さんが卒園した園などに、小学校の方から積極的な働きかけをしていただくように説明をしたいと考えています。

○ 緑谷委員

ありがとうございました。口頭での引継ぎの重要性が高まっていると思っています。ぜひ統一してこういうところまではするんだということをお伝えいただければ、私共の協会加盟園にはこういうお話があったということをお伝えられますので、よろしく願いをしたいと思います。ありがとうございました。

○ 高尾会長

よろしいでしょうか。

○ 指導課長

私は元々中学校の教員ですが、小中学校の引継ぎも口頭で行うことによって子どもたちの様子が分かるし、スタート段階がスムーズにいくということもあります。それと同じ形を、幼稚園・保育園と小学校の引継ぎに生かしていくということで考え出したプログラムですので、その趣旨に生かせるような形で取り組みたいと思います。

○ 高尾会長

よろしいですか。他にありませんか。土木田委員、保育所はいかがですか。

○ 土木田委員

緑谷委員のおっしゃるとおり、学校によって引継ぎがまちまちで保育要録を送っても果たして見ていただいているのかなあという覚えがありました。基本的に保育園側から保育要録を子どもの進学校に送ると受領書が届くのですが、それすら届かなくて、こちらから催促することがありました。今回このようなすばらしいものができましたので、学校と保育園の密な連絡が取ればいいと思います。書面でよりも口頭でやり取りした方が具体的に状況を伝えられますので、各校長の考えではなく、市川市の小学校として一貫した対応をしていただけるとこちら動きやすい部分があります。今回の策定に関しまして、ご尽力いただいた皆様には感謝とお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○ 高尾会長

これを機会に、幼・保から小学校との連携がより密になるということですね。

○ 土木田委員

そうですね。

○ 高尾会長

他にご意見がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○ 駒副会長

スタートカリキュラムで、じゃんけん列車が取り上げられています。これだけなぜ曲名が挙げられているのか。他のものは手遊び歌、春の歌、あるいは楽器遊びや振りをつけて歌うとか書いてあるのに、なぜ、じゃんけん列車だけ具体的なのでしょうか。また、カルタ遊びとか算数のおはじき遊びが出ていますが、どちらかと言えば、カルタやおはじきはお正月遊びの中で幼児の子どもたちの中では体験をしていると思うので、4月中旬というよりはもうちょっと季節を考えた形なのかなという気がしました。

○ 高尾会長

駒先生の専門のところですのでなかなか難しいですが、事務局の方で何かありますか。

○ 指導課担当者

じゃんけん列車、ご指摘のとおりそこだけとても具体的に記述していたということを認識しました。じゃんけん列車は幼稚園で子どもたちがゲームとしても楽しんでいるところです。ただの遊びではなく、勝負性だったり、つながっていくということで数量だったり、また、子ども同士の関わりなど、より総合的なところが入っていますので、じゃんけん列車と具体名を入れました。意図的なものではなく、参考にゲーム名を載せました。

カルタ遊びは季節的には冬のものだと思いますが、4月にひらがなを習い始めたところで、言葉遊びと捉えていただければと思います。

○ 高尾会長

もう一つ、おはじきは。

○ 指導課担当者

ここではおはじきも数を数えるということで、小学校で使われる算数セットには通常のあるおはじきとは違うおはじきが入っています。こちらを使いながら遊びながら数、数量について学んでいくということで、記載させていただきました。

○ 高尾会長

よろしいですか。他にご意見がありましたらお願いします。

○ 中村委員

この趣旨が3ページ目の上のところに、「カリキュラムの活用の仕方」とあります。全体としては個々の状況に応じてそれぞれの実施方法だとか、ガイドラインに基づき引継ぎを行い、関係機関との連携と情報の共有を図りましょうということですが、これまでこのカリキュラムができたことで具体的にどのような違いがあるのかを教えてくださいたいと思います。また、他市でこのようなものを作っているのか、近隣市で同様のものがあるのか、また違いがあるのか教えてください。

○ 高尾会長

事務局、お願いします。

○ 指導課担当者

平成20年頃にガイドラインは公立幼稚園に配付されており、その中で、小学校との引継ぎについてアウトラインが書かれていました。それを使って、こういうところが大事なんだろうなということは分かっていたのですが、幼児教育で学んだ子どもたちの学びや育ちを小学校の方に円滑につなげて生かしていくために、ガイドラインとともにこのアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを併せて活用していただきたいということです。

また、浦安市や千葉市でもアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成・実施が行われています。千葉市ではアンケートを実施して実態の把握に努められているということで、

情報交換を行いました。アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを作成して配付するだけでなく、実際に子どもたちの成長につながるようにやっていただきたいということです。本市でも、アンケートを行い、研修後の実態を把握に努めてまいりたいと考えています。

○ 中村委員

ご説明ありがとうございました。浦安市や千葉市で行っていて、今後、アンケートをとり、具体的な成果を測るということだと理解しました。ガイドラインを作って関係機関との連携、例えば、幼稚園や保育園と小学校との情報の共有ということですが、具体的に情報の共有をどのように図るのでしょうか。

○ 高尾会長

事務局、お願いします。

○ 指導課担当者

公立幼稚園に関してになりますが、近隣の小学校と連絡をとって引継ぎの調整を行い、口頭での引継ぎを主に行っています。どうしても日程調整ができない場合は、電話で引継ぎを行ったりしています。小学校の先生が求める聞きたい情報にも応じて引継ぎを行っています。

○ 中村委員

口頭で幼稚園や保育園の方に聞いて情報を得て、それを学校としては記録として蓄積をして子どもたちの学校教育に生かしていくということで、データは、学校にはファイリングというか、保管されていくということによろしいのでしょうか。

○ 指導課担当者

情報は、いただくだけではなく、それを生かして小学校の教育活動を進めていくものですので、学校では口頭でお伝えいただいたものを記録に残したりして、個人情報に関しては金庫に入れるなどして保管していると思われまます。

○ 高尾会長

保育園や幼稚園から子どもの状況が小学校に伝達され、小学校の方でメモをとるなら、そういう記録は残るのですか。

○ 指導課担当者

残ります。残して引き継いでいきます。

○ 高尾会長

よろしいですか。他にご意見・ご質問はありますか。はい、吉田委員。

○ 吉田委員

幼稚園・保育園から小学校への引継ぎはどれも口頭でなされているようですが、例えば、こ

のプログラムを行うことでもっと違う形に変えていこうというものなのでしょうか。また、認可保育園はこの対象に入っているのでしょうか。

○ 高尾会長

事務局からお願いします。

○ 指導課長

口頭で情報交換をしたうえで小学校ではクラス編成のカードを作成します。そこに記録をしていくようになります。これまで情報交換を幼稚園・保育園と小学校で行われていましたが、できている部分とできなかった部分があったと思います。それをできるだけ可能な範囲で、また、小学校に入学した子どもがスムーズに小学校の生活ができるように、幼稚園や保育園で生活していた情報も含めて共有するために、事業としてスタートさせました。このリーフレットは、研修会に見えた先生方には指導課がお配りをしました。また、お見えにならなかった幼稚園・保育園含めると100以上ありましたが、すべての園に回って配付しています。どこの園の子どもたちが学校に来るかということが不明な部分もあります。それまでの上級生が入学した実績があれば園と連絡をとれると思うのですが、すべての園に連絡を流せるかどうかというのが模索状態ですが、小学校に入る段階で子どもたちの引継ぎができるように進めたいと考えています。小さい子どもたちですが、初等教育のスタート段階はすごく大事だと思います。ですから、スタートがスムーズに行くようにということもありますし、幼稚園・保育園段階でこんなことを準備してくださいということをお願いしているプログラムですので、配付しただけではなく、それを実際に4月にスタートした段階で生かしていきたいと考えています。

○ 高尾会長

認可保育所も認可外保育所も配っているのですか。

○ 指導課長

認可外はすべての情報を把握できていないので、お配りしておりません。

○ 高尾会長

よろしいですか。土木田委員。

○ 土木田委員

「基本的な考え方」の4番目に、「安心して学べる学習環境・生活環境を整えよう」の2番目に、「分かりやすく学びやすい環境を用意する」の例として、文字や絵、写真などの掲示物を用意するとあります。入学後のスタート段階をスムーズにということは分かるのですが、自分で判断し行動できるようにと、自分の私物は自分で整理整頓するように、うちの園ではやっています。学校に行ったら掲示物のおりに並べないといけなくなると、ギャップではありませんが、自分で考えることがどうなのかなと思います。ただ、こういうものを必要とするお子さんにとっては非常に大事なものですが、自分で判断し行動できる子どもたちもそういう環境に置くことはどうなのかなと、ここだけが気にかかりました。ここの必要性を確認させて

いただければと思います。

○ 高尾会長

その辺は、事務局ではどのように捉えていますか。

○ 指導課担当者

ご指摘いただいたとおり、判断することはすごく大切なことだと我々も考えています。ですので、掲示物を最初から掲示するのではなく、一緒に考えたうえで、その後は常時確認ができるように掲示物として教室内で貼るなどの工夫が必要だと考えています。

○ 高尾会長

他にご意見、ご質問があればお願いします。

○ 駒副会長

アプローチカリキュラムは小学校にとって情報として有益だと私も思いますが、幼児教育として考えたときに、10月になったからいきなり子どもたちがこれができるようになっているわけではなく、保育所では0歳、1歳、2歳から、幼稚園では3歳、4歳からの積み重ねがあつてここに到達しているということが、逆に幼稚園や保育所の先生が10月までにこれができるできないといけないんじゃないかという判断につながるの嫌だなと思います。それぞれの育ちがあるわけだから、目指すべきものはこの10の姿ですが、これが一人一人にとってどう育っているかということを幼稚園・保育所・こども園では看取っているわけなので、こうでなければならぬというような幼・保・こども園の先生たちの負担にならないといいなという気がします。

○ 高尾会長

よろしいですか。ご意見があればお願いします。

○ 指導課担当者

まったくそのとおりだと思います。10月になったらこのような姿になっていないと、というわけではありません。10の姿は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、こうなってほしいという姿です。決してゴールではありません。資料には、教職員が指導を行う際に考慮するものであつて、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導するものではないことに十分留意していただきたいと載せてありますが、履き違いをされる方もいらっしゃるかもしれませんので、今後、研修等では機会があれば、この辺のことを詳しく伝えて皆さんに周知をしていきたいと思っています。

○ 駒副会長

先ほど、幼稚園で準備してきてほしいことと指導課長がおっしゃったので、幼稚園で準備をするのではなくて、幼児期の育ちがあるから小学校につながるという認識を持っていただきたいという思いです。

○ 高尾会長

それでは、野口委員から、小学校側からこのようなカリキュラムがあることによって、これまでと接続がどのように変わってくるのかご意見をいただきたいと思います。

○ 野口委員

私は小学校の校長をしておりますが、このカリキュラムができたことで、3点、いいなというか、これから活用させていただきたいなと思っています。1点目は、一つの小学校にはいろいろな幼稚園等からお子さんが入学してきます。私立であったり、公立であったり、認可保育園以外のももあります。そういった様々なところから入学してくるお子さんがどのような方向をもってここまで育てられてきたかということを、小学校側がきちっと把握できるということについては、入学後の指導が非常にしやすいだろうと感じています。2点目は、小学校に入学後のお子さんを見てみると、担任の方から、この子はノーマークだったというつぶやきがたまに聞かれることがあります。それは取りも直さず、小学校と幼・保との引継ぎが上手にできていなかったということが原因として考えられると思います。この場合の引継ぎというのは、あくまでも、一人一人のお子さんの個別・具体的な状況について引継ぎをして、それに学校がどう対応していくかということを検討していく場であると考えていますので、そういうものを考えていく際にも、これが一つの材料となって、この部分がこのお子さんはまだ少し弱いのですよとか、ちょっと困難が伴っていますよという観点でお話が進んでいくのはありがたいと思っています。3点目は、今後の活用です。2月に保護者へ向けた、新入生保護者説明会があります。おそらく、子どもたち以上に不安なのは、保護者の皆さんではないかと考えます。市でこのようなカリキュラムを作っています、本校でもこれを活用しこのようなカリキュラムを作成していますと、その場でお示しできるようなものを作成していきたいと思っています。このカリキュラムの最後のページに、4月第1週のカリキュラム例が載っています。まさにこれは今現在小学校1年生に上がった学年便りに書かれている内容です。この意味をきちっと保護者に伝わるようにしていくことが保護者の安心につながって、結果的にはお子さんの健やかな成長にもつながっていくのだと思っています。

○ 高尾会長

非常にこの活用が期待されるということです。特に、今、先生がおっしゃったように、気になるお子さんが増えているということを知っていますので、そういう子も上手く小学校に接続し適応できるようにしていくことが重要だと考えます。そのためにも、こういうものが用意されたのだと思いますので、できるだけ幼・保からは小学校に情報を提供していただくということが重要なので、その点をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、委員の皆さんがお揃いですので、今日は第1回ということで、自己紹介をお願いしたいと思います。

《委員自己紹介》

【議題2 その他】

○ 高尾会長

それでは、次の議題に入りたいと思います。その他とありますが、委員の皆さんから何かありましたらご意見をお願いしたいと思います。緑谷委員、いかがですか。

○ 緑谷委員

毎回聞いて申し訳ないのですが、今年も募集の時期が終わりました、私立幼稚園協会加盟園ではそんなに落ち込みはなかったという話を聞いていますが、公立幼稚園は今年も少し人数が減少したと聞いています。次年度以降の人数が減ると、私立では教諭を減らしてクラスを絞ってと当然になっていきます。そういうところの計画がおりなのか伺いたいのと、優秀な人材がたくさんいらっしゃると思うので、有効に活用してはどうかとここ数年思っているところです。具体的な今年の就園児数の増減と次年度以降の計画があればぜひお示しいただきたいと思えます。

○ 高尾会長

それでは、事務局からどうですか。

○ 宮内こども入園課長

来年度の公立幼稚園の入園の受付件数を報告させていただきます。まだ確定ではありませんが、平成 31 年度の新入園児の申請受付数は、6 園で 292 名です。平成 30 年度は同時期で 273 名となっており、微増しています。

○ 高尾会長

緑谷委員、よろしいですか。

○ 緑谷委員

ありがとうございました。具体的に、エリア的には、南部が増えて北部が減ってということはあるのでしょうか。

○ 宮内こども入園課長

エリア的に違いがございまして、一番大きく減っているところは、信篤幼稚園です。昨年度は 37 名、今年度の受付は 17 名です。一方、増加しているところは、塩焼幼稚園で、昨年度 67 名に対して今年度 88 名となっています。南行徳幼稚園は昨年度 55 名に対して今年度 84 名です。

○ 高尾会長

緑谷委員、よろしいですか。

○ 緑谷委員

ありがとうございます。百合台幼稚園はいかがでしょう。

○ 宮内こども入園課長

百合台幼稚園は、昨年度 22 名に対して今年度 19 名です。

○ 緑谷委員

信篤幼稚園が大分減っているようですが、20 人を下回るとクラスの数を調整という話があったと思います。17 人と 19 人だと、20 人を切っているのです、そうするとクラス編成数も変わってくるのでしょうか。

○ 高尾会長

事務局、どうですか。まだ途中なわけですよ。

○ 宮内こども入園課長

まだ途中ですので、正式にはまだです。

○ 緑谷委員

ぜひ、人数が減ってクラスが減るようでしたら、有効な人材活用をお願いをしたいということと、この中で、特別支援の希望者の人数は分かるのでしょうか。

○ 高尾会長

事務局はわかりますか。

○ 宮内こども入園課長

まだ確定していない状況です。

○ 緑谷委員

特別支援児は希望者が多く本当に申し訳なくお断りをしたところもあります。ぜひ、そういう方の選択肢がなくならないように公立園で受け入れ枠の拡大等をお願いしたいと思っていますので、ぜひ、ご検討をお願いします。ありがとうございました。

○ 高尾会長

意見ということで聞いておいていただきたいと思います。はい、中村委員、どうぞ。

○ 中村委員

今、公立幼稚園の話が出たので、公立保育園の方で。保育園は待機児童の解消をということで増やしていますが、一方で、人口が減少していくということが将来的に明確になっているわけで、公立保育園のあり方についてどのように考えているのでしょうか。私は個人的には、人口が減っていく中で、公立保育園はしっかりと維持をさせていかなければならないと思っていますが、市の考え方を教えてください。

○ 高尾会長

現時点で答えられる範囲でお願いします。

○ 高久こども政策部次長

総合管理計画の個別計画を策定中ですので、これと併せた形で発表していきたいと思っています。今現時点では、中村委員がおっしゃる選択肢も一つでございますけれども、今後の流れに関してはその計画に基づいて進めていきたい、策定中ですのでもうしばらくお待ちいただきたいと思います。

○ 中村委員

今の公共施設の総合管理計画、個別計画という話はよく分かっているのですが、それはあくまでもハードの話なので、例えば、複合化をするとか、統合していくということになります。保育の話はハードの話とは別だと思っているので、それとは別に、市川の子どもの保育をどうしていくのか、公立がどう関わるのかということはまた明確になったらでけっこうなので、話していただきたいと思いますが、今の話はちょっと違うかなと思います。

○ 高尾会長

事務局の方で何かありますか。

○ 高久こども政策部次長

今、公立保育園をどうするかということ自体、ハードとソフトが一緒になりますので、その意味で、しっかりと、その計画ができた段階でお示ししたいと思います。

○ 中村委員

水掛け論になるかと思うのですが、今の話だと、財源の問題で言えば、施設については建て直すのはお金がかかるよねと、じゃあ減らしましょうとなったら、ソフトの面はどうなるのかということです。一体というのは鶏の卵じゃないですけど、私の考えとしては、ハードの更新の話は基本的にはお金の話だと思っているので、やっぱり子どもをどうするのかというところが先に来るのだと考えていますが、その辺は意見として、市の考えは理解をしました。

○ 高尾会長

他にご意見がありましたらお願いしたいと思います。

○ 緑谷委員

次年度の公立幼稚園での、私立幼稚園という預かり保育や、低年齢化、2歳や3歳への対応など、新しい機能を持たせる計画はあるのでしょうか。

○ 高久こども政策部次長

特にその計画はございません。

○ 高尾会長

よろしいですか。他にご意見があればお願いしたいと思います。無償化の話はまだ具体化はしていないのですか。

○ 高久こども政策部次長

はい、まだです。

○ 高尾会長

よろしいでしょうか。それでは、特にご意見がないようですので、終了したいと思います。これもちまして、平成 30 年度第 1 回市川市幼児教育振興審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。

【会議終了】